タイ王国・大韓民国・日本の非行少年の家族比較

家族調査の結果から

中央研究所　佐藤　和夫
小島　賢一
奥村　　晋
東京矯正管区　小林　京子

1　問題提起

家族の特徴とは，文化によって異なっており，国毎に様々な家族論が論じられている。しかし，特にアジアの国々では，実証データに基づいた比較研究が多くないため，その特徴の相対性については明かにされていない。今回，タイ王国と大韓民国政府の協力により，各国の非行少年の家族について，アンケートを行う機会を得た。そこで，このデータをもとに，これまで一般に言われているタイ王国・大韓民国・日本の家族像と実際の家族像の差異を検討することとした。まず，これまで主張されている各々の国の家族の特徴について概括してみたい。

タイ王国の家族の特徴として，まず犬塚(1992)は，家族成員の結びつきがゆるやかな点をあげている。タイ王国の社会を「ゆるやかな構造をもった社会システム」と主張している人類学者 Embree を紹介し，こうしたシステムがタイ王国の家族制度にも影響を及ぼしていることを指摘している。なお家族成員間の結びつきが弱い分，成員同士が激しく対立するなどの感情的な緊張も高まりにくいのではないかと考察している。

また犬塚(1992)は，タイ王国の家族が母系性に基づいている点をも指摘している。男子は相続権を放棄して婚出し，女子は結婚しても親と同居ないしは同じ敷地内に居住するといった状況下，家父長的な権威や家系といった考え方は重視されず，男性に特別な役割や義務が期待されていることは少ないのではないかと考察している。実際，国際青少年育成振興財団(1991)の調査結果でも，父親よりも母親を尊敬し親しみを感じ高く評価しているとの結果を得ている。

一方，大韓民国は，近世封建社会成立以来，儒教倫理の強い影響を受け，父系血族中心の直系核家族システムを特徴としてきた。1989年の家族法改正（1991年より実施）により，戸主の相続は，長男だけでなく出生順位を問わないことにし，女性にも認められることになったのだが，戸主制度そのものは残存している。

祖父江(1990)は近年の韓国人論を概括しているが，その中で，大韓民国の特徴として，1）個人が家から独立できず，家族の内部には上下の身分制が存在する家族主義が強いこと，2）父子の孝は，他のすべての人間関係に優先する主従関係に等しいこと，3）婦女子の家族内における地位が極めて低く，従順な性格が要求されること，をあげている崔の論文を紹介している。

しかし一方で，上記のような女性観とは，儒教思想の影響を受け，主として男性の観点からなされてきたからではないかと疑念をはさむ者もいる。特に1970年代以降のフェミニズムの流れの影響や実証的研究の流行と共

に，家族内での女性の地位については見直され始めている。例えば，祖父江(1990)は，伝統的な忍従を強いられた女性は，したたかさや強さをもつに至り，儒教思想が崩れつつある現代の大韓民国では，「カカア天下」が一般家庭だと指摘する人すらいると述べている金の論文をも紹介している。また片山(1990)は，従来男性の役割が強調されていた祖先祭祀においても，実際には主人と主婦が相互補完的な役割を担っていた点を指摘し，加えて，信仰面では儒教よりも巫俗や民間信仰が効果的であり，後者は専ら女性が中心に行っていたことに言及している。また片山(1990)は，「外主人」と呼ばれる家長に対して，主婦は「内主人」と呼ばれ，家族の食事・衣類・部屋の掃除・子どもの養育といった日常生活全般にわたる仕事に携わり，来客の食事や祖先祭祀の供物並びに準備なども行っていた点を指摘している。

最後に日本については，近世封建社会成立以来，父系血族中心の直系核家族システムを特徴として持ってきたものの，1946年の民法改正以降，社会の法的な基本的単位は個人となり，家の観念や戸主権の継承は撤廃されるにいたっている。なお，土居(1971)は，日本人の精神構造を理解するための鍵概念として，依頼心に対する肯定的な態度を表現する「甘え」に言及している。そして，この「甘え」とは，特に当事者が「内」とみなした相手に示すものであると述べている。すなわち，内の人の代表である家族成員に対しては，多分に「甘え」が存在していると考えられる。また近年では，仕事に夢中になってあまり家族のことを省みないといった父親不在論も話題を呼んでいる。

2　目的

タイ王国・大韓民国・日本の非行少年の親子関係について，質問紙調査の結果をもとにその差異を検討することを目的とした。

3　方法

(1)　調査対象者(注1・2)

タイ王国男子非行少年	200名
タイ王国女子非行少年	120名
大韓民国男子非行少年	199名
大韓民国女子非行少年	116名
日本男子非行少年	881名
日本女子非行少年	367名

(2)　調査方法

タイ王国では，日本語版を翻訳した調査表を用いてタイ語による個別面接式調査で，1990年10月から1991年3月までに実施した。大韓民国では，日本語版を韓国語に翻訳した調査表を用いて，集団自記式調査で1992年3月に実施した。日本では，調査表を用いての集団自記式調査で，1991年10月から同年11月までに実施した。

(3)　分析対象の変数

被験者の属性としては，居住国と性別の2変数を扱った。3国間で，質問内容が若干異なったため，本研究では，共通する18項目に限定して分析を行った。この18項目（父親に関するもの9項目，母親に関するもの9項目）に関しては，4件法で回答するようになっていたので，4件の間を等間隔とみなして，分析を行った。

4　結果

(1)　分析1

18項目それぞれについて，被験者の居住国と性別の2要因を用いて分散分析を行った。有意な主効果(P＜.05)があるものに関しては，Tukey´s法を用いて，群間の有意差を検証した。なお，居住国毎の男女別で，それぞれの質問項目の平均得点を資料1にまとめてある。

「あなたが困っているとき，お父さんを頼りにしたことが」（以下，A1と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交

互作用が有意だった。タイ王国は，大韓民国や日本に比べて，頼りにしないと回答していた。また，タイ王国と大韓民国では，男子の方が女子よりも，頼りにしないと回答していたのに対して，日本では，逆に男子の方が女子よりも，頼りにすると回答していた。

「あなたは進学や仕事のことでお父さんに相談したことが」（以下，Ａ２と略す）については，居住国の主効果が有意だった。大韓民国や日本に比べて，タイ王国の方が，相談しないと回答していた。

「お父さんは，あなたの気持ちや悩みを」（以下，Ａ３と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。日本の方が，大韓民国やタイ王国に比べて，気持ちや悩みをわかっていないと回答していた。また，タイ王国と大韓民国では，男子の方が女子に比べて，気持ちや悩みをわかっていないと回答していたのに対して，日本では，女子よりも男子の方が，わかっていると回答していた。

「あなたはお父さんの考えや気持ちを」（以下，Ａ４と略す）については，居住国の主効果が有意だった。日本は，タイ王国や大韓民国に比べて，考えや気持ちがわからないと回答していた。

「お父さんはあなたの勉強や仕事のことで気を配ってくれることが」（以下，Ａ５と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。日本は，タイ王国や大韓民国に比べて，気を配ってくれないと回答していた。また，タイ王国や大韓民国では，女子よりも男子の方が，気を配ってくれないと回答していたのに対して，日本では，女子の方が男子よりも，気を配ってくれないと回答していた。

「あなたはお父さんから言われたことを」（以下，Ａ６と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。タイ王国や大韓民国に比べて，日本は，守らないと回答していた。加えて，タイ王国や大韓民国では，女子よりも男子の方が，守らないと回答していたのに対して，日本では，女子の方が男子よりも，守らないと回答していた。

「お父さんはあなたにうるさく言い過ぎると思うことが」（以下，Ａ７と略す）については，居住国の主効果が有意だった。日本の方が，タイ王国や大韓民国に比べ，うるさく言い過ぎると思うと回答していた。

「あなたはお父さんと口げんかになることが」（以下，Ａ８と略す）については，居住国の主効果が有意だった。日本の方が，大韓民国やタイ王国に比べて，口げんかになることが多いと回答していた。

「お父さんとあなたの関係は」（以下，Ａ９と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。日本の方が，タイ王国や大韓民国に比べて，関係がうまくいっていないと回答していた。加えて，タイ王国や大韓民国では，女子の方が男子よりも，関係がよいと回答していたのに比較して，日本では，男子の方が女子よりも，関係がよいと回答していた。

「あなたが困っているとき，お母さんを頼りにしたことが」（以下，Ｂ１と略す）については，性別の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。タイ王国や大韓民国では，女子の方が男子よりも，頼りにしたことが多いと回答していたのに比べて，日本では，女子の方が男子よりも，頼りにしないと回答していた。

「あなたは進学や仕事のことで，お母さんに相談したことが」（以下，Ｂ２と略す）については，性別の主効果，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。タイ王国の方が，大韓民国や日本に比べて，相談しないと回答していた。加えて，大韓民国やタイ王国では，女子よりも男子の方が，相談しないと回答していたのに対して，日本では，

性別による差はなかった。

「お母さんは，あなたの気持ちや悩みを」（以下，Ｂ３と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。タイ王国，大韓民国，日本の順で，気持ちや悩みをわかってくれるとの回答が減っていった。また，タイ王国と大韓民国では，性別による差がほとんどないのに比較して，日本では，男子よりも女子の方が，わかってくれないと回答していた。

「あなたはお母さんの考えや気持ちが」（以下，Ｂ４と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。タイ王国，大韓民国，日本の順で，考えや気持ちがわかるとの回答が減っていった。また，大韓民国では，女子の方が男子よりも，わかると回答していたのに対して，タイ王国や日本では，性別による差は大きくなかった。

「お母さんはあなたの勉強や仕事のことで気を配ってくれることが」（以下，Ｂ５と略す）についても，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。日本は，タイ王国や大韓民国に比べて，気を配ってくれないと回答していた。また，タイ王国や大韓民国では，女子の方が男子よりも，気を配ってくれると回答していたのに比較して，日本では，男子の方が女子よりも，気を配ってくれると回答していた。

「あなたはお母さんから言われることを」（以下，Ｂ６と略す）については，性別の主効果，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。タイ王国や大韓民国は，日本に比べて，言われることを守ると回答していた。また，タイ王国や大韓民国では，女子の方が男子よりも，守ると回答していたのに対して，日本では，女子の方が男子よりも守らないと回答していた。

「お母さんはあなたにうるさく言い過ぎると思うことが」（以下，Ｂ７と略す）については，居住国の主効果が有意だった。日本，大韓民国，タイ王国の順に，言い過ぎると思うとの回答が減っていった。

「あなたはお母さんと口げんかになることが」（以下，Ｂ８と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。日本，大韓民国，タイ王国の順で，口げんかになるとの回答が減っていった。また，タイ王国と大韓民国では，性差が有意でないのに対して，日本では，女子の方が男子に比べて，口げんかになることが多いと回答していた。

「お母さんとあなたの関係は」（以下，Ｂ９と略す）については，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。日本の方が，タイ王国や大韓民国に比べて，関係がよくないと回答していた。さらに，日本では，女子の方が男子に比べて，その関係がよくないと回答していた。さらに，日本では，女子の方が男子に比べて，その関係が悪いと回答していたのに対して，大韓民国やタイ王国では，男子の方が，関係が悪いと回答していた。

(2)　分析２

18項目について，主成分分析を行った。主成分数は固有値１以上のものとし，回転はバリマックス法を用いた。主成分分析の結果，４主成分が抽出された（各質問項目の主成分負加量は，資料２に示されている）。なお，主成分得点について，居住国，性別による有意差（Ｐ＜.05）を分散分析を用いて検定した。図１から図４は，居住国別の主成分得点を男女別に示したものである。

第１主成分は，母親に対する質問項目であるＢ１，Ｂ２，Ｂ３，Ｂ４，Ｂ５，Ｂ９の主成分負荷量の絶対値が高かった。これらの質問項目は，母子間の信頼関係に基づいた心理的交流の強さに関連していると解釈できる。図１で主成分得点が高いことは，母親との交流が強いことを示しているが，この主成分得点について，居住国と性別の二要因で分散分

析を行った結果，有意な差はみられなかった。

第２主成分は，母親に対する質問項目であるＢ６，Ｂ７，Ｂ８の主成分負荷量の絶対値が高かった。加えて，父親に対する質問項目であるＡ４，Ａ６，Ａ８の主成分負荷量も，母親に対するものほどではないが，高かった。したがって，この主成分は，親の指導に対する従順性の中でも特に母親に対する従順性を示していると解釈できる。この主成分得点について，居住国と性別の二要因で分散分析を行ったところ，居住国の主効果，性別と居住国の交互作用が有意だった。図２で主成分得点が高いことは，従順性が高いことを示しているが，タイ王国，大韓民国，日本の順に従順性が低くなり，各国間に有意差があった。なお，タイ王国では，男子よりも女子の方が，従順なのに対して，大韓民国や日本では，男子の方が女子よりも，従順だった。

第３主成分は，父親に対する質問項目であるＡ１，Ａ２，Ａ３，Ａ４，Ａ５，Ａ６，Ａ９で主成分負荷量の絶対値が高かった。これらの項目は，父子間の信頼関係に基づいた心理的交流の強さに関連していると解釈できる。質問項目の類似性から，この父親との関係を示す第３主成分は，母親に対する第１主成分にほぼ対応していると言えよう。図３では，この主成分得点が高い程，父親との交流が強いことを示している。主成分得点について，居住国，性別の２要因を用いて分散分析を行ったところ，居住国の主効果と，性別と居住国の交互作用が有意だった。大韓民国，タイ王国，日本の順に交流が乏しくなる傾向がみられ，大韓民国と日本の間に有意差があった。性別と居住国の交互作用については，タイ王国では，女子の方が男子よりも，交流が多く，大韓民国では，あまり性差がなく，さらに日本では，女子の方が男子よりも，交流が乏しいことが明らかになった。

第４主成分については，Ａ７，Ａ８の主成分負荷量が高かった。したがって，父親に対する従順性を示していると解釈できる。図４では主成分負荷量の値が高いほど，従順であることを示している。この父親との関係を示す第４主成分は，母親に対する第２主成分にほぼ対応していると言えよう。第４主成分の主成分得点について，居住国と性別の２要因で分散分析を行ったところ，居住国の主効果が有意だった。すなわち，日本は，他の２国に比べて，父親に従順でないことが示された。

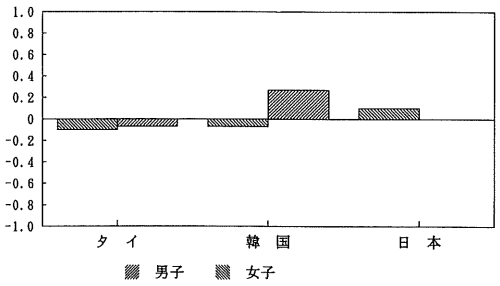

図１　第一主成分の平均得点
（居住国別男女別）

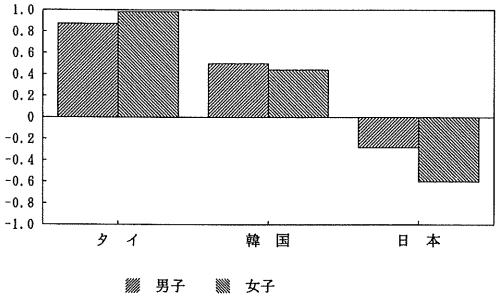

図２　第二主成分の平均得点
（居住国別男女別）

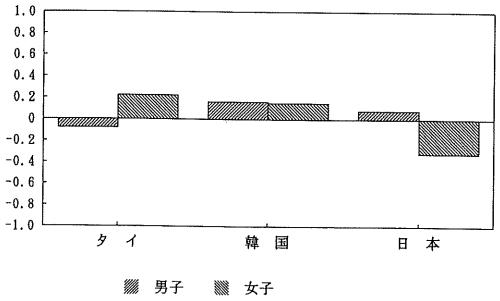

図3　第三主成分の平均得点
(居住国別男女別)

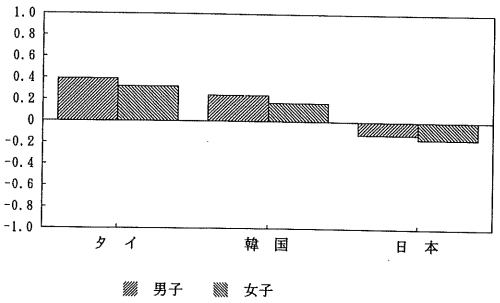

図4　第四主成分の平均得点
(居住国別男女別)

(3)　分析3

同じ内容を尋ねている父親に対する質問項目への回答と母親に対する質問項目への回答にどの程度の差があるかを検討する目的で，同一被験者に対する2項目間の差（「父親への質問項目の得点」－「母親への質問項目の得点」）を調べた(注3)。加えて，この差について，分散分析により，居住国と性別の有意差(P＜.05)を検定した。

A1とB1の差「あなたが困っているときに，頼りにしたことが」については，居住国，性別を問わず，父親よりも母親を頼りにすると回答していた。なお分散分析の結果，性別と居住国の間に交互作用があった。タイ王国では，女子よりも男子の方が，父親よりも母親を頼りにする程度が高いのに比較して，大韓民国や日本では，男子よりも女子の方が，その程度が高かった。

A2とB2の差「あなたは進学や仕事のことで，相談したことが」については，居住国，性別を問わず，父親よりも母親に相談していた。なお分散分析の結果，性差の主効果，性差と居住国の交互作用が有意だった。タイ王国では，父親に相談する程度と母親に相談する程度に性差がないのに比較して，大韓民国や日本では，男子よりも女子の方が，父親よりも母親に相談する程度が高かった。

A5とB5の差「あなたの勉強や仕事のことで気を配ってくれることが」については，居住国，性別を問わず，父親よりも母親の方が気を配ってくれると回答していた。なお分散分析の結果，居住国の主効果が有意だった。大韓民国では，父母間に大差がないのに対して，タイ王国や日本では，母親の方が気を使ってくれていると回答していた。その傾向は，日本の方が強かった。

A7とB7の差「あなたにうるさく言い過ぎると思うことが」については，分散分析の結果，居住国の主効果が有意だった。タイ王国では，父親の方が母親よりもうるさいと回答していたのに対して，大韓民国では，父母のうるささに大差がないようだった。一方日本では，父親よりも母親の方がうるさいと回答していた。

A8とB8の差「口げんかになることが」については，居住国，性別を問わず，父親よりも母親の方が口げんかになることが多いと回答していた。なお分散分析の結果，居住国の主効果が有意だった。大韓民国，日本，タイ王国の順で，母親とのけんかの方が父親と

のけんかよりも多いことが明らかになった。

残りの質問項目（Ａ３とＢ３の差，Ａ４とＢ４の差，Ａ６とＢ６の差，Ａ９とＢ９の差）ではいずれも，父親との関係よりも母親との関係の方が親和的であると回答していた。なおこれらの質問項目については，居住国と性別の２要因の分散分析の結果，有意な主効果ないし交互作用はみられなかった。

5　考察

これまでに父親を頼りにしたり相談した経験が，タイ王国では，日本や大韓民国に比べて，少ないことが明らかになった。しかし，その他の側面に関しては，日本が，タイ王国や大韓民国よりも，父親との交流を問題視していることが明らかになった。母親との関係についても，父親との関係と似た結果が得られた。すなわち，全般に，タイ王国や大韓民国に比べて，日本の母子関係の方が，悪くなる傾向があった。タイ王国，大韓民国，日本の順に，その関係が悪化する項目もあった。ただし，母親に相談した経験に関しては，タイ王国が，大韓民国や日本よりも，少ないとしており，加えて母親を頼りにしたことについても，３国間に有意な差がなかった。

両親にこれまで頼ったり相談したことが少なく，かつ両親に対する感情が肯定的であるタイ王国については，Embree が言及するゆるやかな社会構造が関係していると考えられる。すなわち，家族成員間の結びつきが弱いため，相談したり依存する習慣があまりなく，かつ結びつきが弱い為に，激しい対立や感情的な緊張も高まることが少ないのではないだろうか。一方，両親に相談したり依存する一方で，様々な不平不満をもつ日本については，土居(1971)が述べている日本人の国民性である「甘え」が関連していると思われる。

なお，分析の結果，両親に対する従順性の主成分が抽出されたが，タイ王国・大韓民国・日本の順に，従順性が乏しくなっていくことが明かになった。儒教思想によれば，年上の者を敬うべきなのだが，実際には，タイ王国の子供の方が，儒教が普及している大韓民国の子供よりも，親に従うことが多いといった今回の調査結果は，予期していなかったものである。タイ王国の方が，親の指示が少なく，それだけに指示される場合には従うのかもしれない。一方，韓国や日本では，親の指示が多岐にわたるため，そのすべてに従うのは困難なのかもしれない。

同様の質問項目に対する父母への回答の差の結果からは，全般に，居住国や性別を問わず，父親よりも母親との方が親密である傾向があった。居住国別にその特徴をみてみると，まずタイ王国では，父親はうるさく，一方，母親は気を配ってくれるし，大韓民国や日本に比べて母親とのけんかも多くないなどの傾向を有しており，概して，より母親に親和していることが明かにになった。犬塚(1992)も述べているように，タイ王国の家族が母系性に基づいていることと関連している結果といえよう。大韓民国の被験者も，全般には父親よりも母親に親和していた。この結果は，片山(1990)らが主張するように，大韓民国の家族でも，母親の役割がかなり重要であることを示している。しかし，タイ王国や日本に比較して，親の気を使ってくれる程度やうるさいと感じる程度の父母間の差が大きくなく，父親とけんかすることも少なく，概して父親に親和していた。大韓民国では，儒教思想のくずれがあるとはいえ，他国に比べれば，未だ父親の権威が保たれているとみなせる。一方，日本については，父親に比べて母親の方が気を使ってくれると回答しているかたわら，うるさく言い過ぎるとも感じており，両価感情をうかがえた。子供の数が減り，父親は仕事に専念しているという状況下，日本の母子関係は緊密である。すなわち，タイ王国での家族成員の関係とは逆で，緊密な関係であるがゆえに，激しい対立や感情的な緊張が高ま

ることもままあると解釈できる。

各国の被験者の親子関係の特徴を男女別にみてみると，まず，父親と被験者の関係については，タイ王国や大韓民国では，全般に男子よりも女子の方が，父親との関係がよいのに対して，日本では，全般に女子よりも男子の方が，その関係がよかった。また，母親と被験者の関係についても，日本では，全般に女子よりも男子の方が，母親との関係がよかったのに対して，タイ王国や大韓民国では，全般に男子よりも女子の方が，その関係がよかった。また，同様の質問項目に対する父母への反応の差については，タイ王国では，男子の方が女子に比べて，父親よりも母親を頼りにする傾向が強かったのに対して，大韓民国や日本では，男子よりも女子の方が，父親よりも母親を頼りにしたり相談したりする傾向が強かった。父親や母親に対する親和度に対する性差が，被験者の居住国によって異なっている点は興味深い。

本調査は，非行少年のみを対象としたものである。ところで，どのような人が非行少年になるかについては，各国の社会・政治状況で変化する。例えば，タイ王国では，自活や家計への寄与を強いられ，いわば生きるために犯罪を犯す少年が数多く存在する（犬塚，1992）。一方日本では，生活を支えるだけの物的条件は多くの場合満たされており，生活苦よりもむしろ家族間の葛藤などに起因する犯罪が多いと考えられている。したがって，本研究で明かになった3国間の差が，各国の非行に陥った少年の特性に限定されたものであるかもしれない。この3国間の差が，各国の少年全般が認知している特性なのか，それとも各国の非行少年特有の傾向なのかについては，今後の検討課題である。

注記

注1）本調査のデータは，大韓民国・日本に関しては，少年鑑別所・少年院の双方の施設から集められており，タイ王国に関しては少年院から集められた。ただし，タイ王国の少年院の機能は大韓民国・日本の少年鑑別所と少年院の機能を併せ持っている。そこで，本研究では，少年鑑別所・少年院の区別をせずに分析することとした。

注2）日本では，非行をしていない一般少年にも同種調査が行われたが，その被験者の年齢構成は，非行少年のそれと異なっており，比較の対象とするには無理があった。また，タイ王国と大韓民国では，非行をしていない一般少年に対する調査が行われなかった。そこで，本研究では3国の非行少年のみを対象として分析を行った。なお，日本の一般少年についての調査結果については，奥村他(1992)でふれられている。

注3）父親・母親の一方のみに回答した被験者は分析対象から除いた。

参考文献

犬塚石夫　1992　タイ王国における家族と少年非行　中央研究所紀要　2，119－125.

奥村晋・小島賢一・遠藤隆行　1992　日本とタイ王国における家族に関する調査結果の比較　中央研究所紀要　2，47－74.

片山隆裕　1990　韓国人の意識と行動　（杉山晃一他編　韓国社会の文化人類学より）弘文堂

国際青少年育成振興財団　1991　アジア・太平洋地域青少年シリーズ　3：タイの最少年と教育　財団法人国際青少年育成振興財団

祖父江孝男　1990　韓国人の意識と行動　（杉山晃一他編　韓国の文化人類学より）　弘文堂

土居健郎　1971　「甘え」の構造　弘文堂

資料1　質問項目ごとの平均得点

（居住国別男女別）

項目	タイ男子	韓国男子	日本男子	タイ女子	韓国女子	日本女子
A 1	2.94	2.59	2.43	2.52	2.37	2.79
A 2	3.03	2.62	2.55	2.90	2.72	2.89
A 3	2.08	1.99	2.12	1.94	1.94	2.47
A 4	1.88	2.03	2.39	2.01	1.98	2.53
A 5	2.02	1.84	2.09	1.62	1.63	2.46
A 6	2.69	2.67	3.18	2.41	2.56	3.43
A 7	2.99	2.84	2.50	3.04	2.83	2.43
A 8	3.40	3.48	2.63	3.45	3.48	2.51
A 9	1.91	1.99	2.04	1.73	1.89	2.37
B 1	2.25	2.12	1.93	2.15	1.75	2.02
B 2	2.70	2.39	2.23	2.55	1.93	2.23
B 3	1.79	1.83	1.88	1.70	1.76	2.10
B 4	1.69	2.02	2.17	1.77	1.75	2.26
B 5	1.84	1.77	1.85	1.53	1.62	2.01
B 6	2.58	2.56	3.09	2.25	2.41	3.35
B 7	3.24	2.88	2.32	3.17	2.80	2.15
B 8	3.21	2.97	2.36	3.40	2.80	1.97
B 9	1.65	1.71	1.78	1.60	1.63	1.95

資料2　質問項目ごとの主成分負荷量

項目	主成分 第一	第二	第三	第四
A 1	−0.148	0.177	−0.703	0.021
A 2	−0.242	0.132	−0.680	0.105
A 3	−0.114	−0.097	−0.721	−0.252
A 4	−0.049	−0.339	−0.607	−0.033
A 5	−0.107	−0.139	−0.684	0.121
A 6	−0.087	−0.561	−0.430	−0.055
A 7	−0.032	0.050	0.058	0.852
A 8	−0.022	0.319	0.085	0.672
A 9	−0.148	−0.111	−0.711	−0.296
B 1	−0.798	0.077	−0.073	0.044
B 2	−0.762	0.144	−0.139	0.026
B 3	−0.723	−0.280	−0.118	−0.038
B 4	−0.587	−0.427	−0.123	−0.021
B 5	−0.623	−0.103	−0.203	0.078
B 6	−0.291	−0.705	−0.162	0.059
B 7	0.046	0.623	−0.117	0.309
B 8	0.035	0.749	−0.037	0.205
B 9	−0.694	−0.330	−0.151	−0.108